

軟白長ねぎ

担当者 技能研究員 深海 健太郎

試験課題名	品種栽培展示圃
目的	本町に適した多収・高品質・良食味の品種を選定し、生産者への普及に資する
期待される成果	地域適合複合栽培による高品質生産並びに労働生産性の向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所、JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会長ねぎ部会

1 供試品種・資材

品種

※元 蔵 (武蔵野) 白羽一本太 (トーホク) 秀 雅 (武蔵野)
金長3号 (みかど) ぬくもり (カネコ)

※基準品種

2 耕種概要

土 質 ~ 灰色低地土 (埴壤土)

前 作 ~ 越冬キャベツ

播 種 日 ~ 3月24日 定 植 日 ~ 5月18日 収 穫 日 ~ 10月1日

栽 植 密 度 ~ 畦幅80cm×株間6cm 20825本/10a当たり

面 積・区 ~ 1区1.2m×0.8m=0.96㎡ 20株/1区当たり 反復あり

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.39	0.067	97.6	35.3	66.3	595.4	9.3

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

堆 肥 ~ 1,500kg

(3) 施肥内容 (成分量/%)

基 肥 ~ 硫酸アンモニウム	(21 - 0 - 0)	5月17日	全層施肥
基 肥 ~ 粒状過磷酸石灰	(0 - 18 - 0)	5月17日	全層施肥
基 肥 ~ 硫酸カリ	(0 - 0 - 50)	5月17日	全層施肥
分 肥 ~ 硫酸アンモニウム	(21 - 0 - 0)	6月22日	側条施肥
分 肥 ~ 硫酸アンモニウム	(0 - 18 - 0)	6月22日	側条施肥
分 肥 ~ 硫酸アンモニウム	(21 - 0 - 0)	8月 3日	側条施肥
分 肥 ~ 硫酸アンモニウム	(0 - 18 - 0)	8月 3日	側条施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

			N	P	K
基 肥	硫酸アンモニウム	28kg	6		
基 肥	粒状過磷酸石灰	26kg		5	
基 肥	硫酸カリ	8kg			4
分 肥	硫酸アンモニウム	9.5kg	2		
分 肥	硫酸カリ	4kg			2
分 肥	硫酸アンモニウム	9.5kg	2		
分 肥	硫酸カリ	4kg			2
合 計			10	5	8

4 調査項目

生育調査 ~ 播種日・発芽日・発芽率・生育日数

収量調査 ~ 全長・生葉数・軟白・規格内割合・規格内収量・調整率・平均一本重

5 生育調査

項目	品種	元蔵	白羽一本太	秀雅	金長	ぬくもり
播種日		3月24日				
発芽期		4月3日				
発芽率 (%)		91	87	94	98	93
生育日数		185日				
全長 (cm)		87.0	83.0	84.0	91.0	86.0
生葉数 (枚)		9.6	8.9	10.1	9.5	7.6

6 収量調査

項目	品種	元蔵	白羽一本太	秀雅	金長	ぬくもり
規格内収量 (kg/a)		446	391	367	269	321
調整率 (%)		63.2	68.6	66.0	54.0	59.8
平均一本重 (g)		223	195	183	158	169
軟白 (cm)		29.2	28.9	28.2	28.6	27.6
規格内割合 (%)	3L (4~5本/kg当たり)	95	75	50	48	32
	2L (6~8本/kg当たり)	5	25	50	52	58
	L (9~11本/kg当たり)	-	-	-	-	10

7 病虫害防除履歴

殺虫剤			殺菌剤		
7月20日	アディオン乳剤	1,000倍	7月27日	ダコニール1000	1,000倍
			8月20日	ダコニール1000	1,000倍

8 試験結果概要

(1) 生育経過

播種は3月24日に全品種ハウス内にて直播した。発芽期は10日後に全ての品種が生え揃い発芽率はおおむね90%を記録した。

定植は5月18日に行った。土塊が少々多い土壌であったが、生育は順調に進み、10月1日に収穫した。収穫までには185日かかった。

(2) 収量調査結果

全長調査では、平均が 86.2cmの中で、金長が 91cmと一番長く、元蔵が 87cm、ぬくもりが 86cmとなった。

規格内収量は、元蔵が4,643kgと最も高く、続いて白羽一本太が4,060kgとなっている。また、調整率も白羽一本太が最も高く68.6%となり、秀雅が66.0%、元蔵が63.2%、ぬくもりが59.8%、金長が54.0%となっている。

軟白の長さは、元蔵が29.2cmと最も高く、他の品種は27cmから28cmとなっている。

規格内の大きさ別では3全ての品種がL~2Lに収まっている。

(3) 考察

今年度は元蔵を始めとした5品種とも規格内割合で2Lから3Lが多くなり、5品種の平均収量は 359kgとなった。中でも元蔵が収量として最も良い結果となったので次年度以降も基準品種として取り組んでいきたい。

そして次年度への課題として、軟白部分の長いねぎを栽培するために培土の問題や長さや太さのバランスに着目しながら高品質な軟白長ねぎを栽培したい。